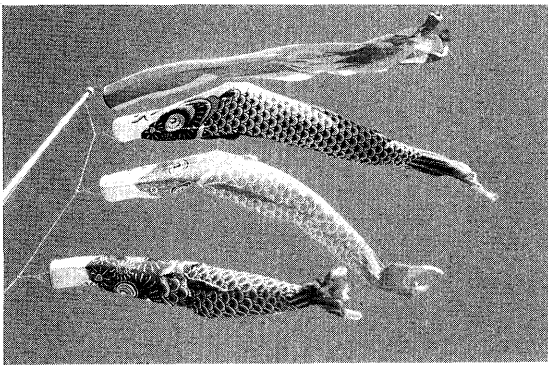


鯉のぼりの里を訪ねて

—— 埼玉県加須市 ——

鯉のぼりの里、埼玉県加須市を訪ねたのは
北風の吹く二月某日。東武伊勢崎線加須駅を
降りると駅前広場にはりと冴え渡った冬空
に元氣よく鯉のぼりが泳いでいました。

“加須の鯉のぼりは、明治の初めの頃、この
あたりで傘や提灯を作っていた人たちが材料



加須駅前にて

の和紙を利用して作った鯉のぼりを、露店などで売ったのがはじまりといわれています。

明治の中頃になるとその需要も多くなり、製造の専門化がはじまり専門メーカーとしての鯉のぼりづくりが確立され、今では四軒のメーカーで生産されています。⁴⁾（加須市観光課パンフレットより）

他がスクリーンによるプリントの鯉のぼりを生産する中、橋本弥喜智商店一軒だけが手描き鯉のぼりを制作しているというので、訪ねました。

季節柄、店頭にはお雛さまが並べられ、販売、配送に大忙しの様子。三代目橋本隆さんに導かれて古い日本家屋を一步奥へ入ると、そこでは三代目のお母様がミシンで吹き流しの縫製中、さらに二階へ上ると、見事な何十体もの手描き鯉のぼりが行程の途中で吊るされ乾かされており、この道五十五年の野中勝一さんが金引きをしていらっしゃいました。三代目隆さんと野中さんにお話を伺いました。

——鯉のぼりの由来について教えてください。

●鯉のぼりの始まりはさほど古いものではなく、江戸時代、町人から始まりました。端午の節句（端午は月のはじめの午の日、漢代以降、五月五日を端午というようになった。）は、平安の王朝時代より、鎌倉・室町・江戸・明治時代まで国家的な祝祭日でした。江戸時代中頃、三月三日の雛まつりを女子の節句と決めたのに対して五月五日を男子の祝日とし、武家では、男子の出生を祈り祝って屋外に家紋

をしるした旗指物、幟^{のぼり}、吹流し等を飾り立てるようになりましたが、町家ではそれを許されなかったのです、これらのかわりに鍾馗^{しゅうき}や武者を描いた幟や、中国の伝説にある「鯉は龍門の滝を登り龍となって天に昇る出世魚」といわれ、健康と勇気と成功の象徴とされている鯉の形を吹き抜きとすることを考え、民家で立てるようになったようです。

——手描き鯉のぼりの出来上るまでを教えてください。

●最初、綿布を鯉の形に裁断し、ミシンで一体一体縫製します。そして鯉の目の位置を決め、頭、胴、尾の順に素描き、うす墨、こけ出し、ボカシ、目に色付け、群青、金引き、黒目入れ、腹ビレ付け、口輪、口紐、口金付けの順に行います。彩色だけでも金銀他12色。雨にも流れず、陽の光にもさめない顔料を使用し、描いては乾かしの18行程を経て、完成まで約一か月かかります。

——他はスクリーンによるプリント加工の中で、手描きを経てこられたのは何故ですか。

●数からいえば機械とは雲泥の差ですが、肉筆の美しい力強い線、繊細な毛先の線、独特のぼかしの味、絵の具をたっぷり含んだ線からだんだんかすれていく色彩の濃淡は、機械では決して出せません。心を込めた生きた線や柄が表現できるのが何よりでしょう。進歩できるのは手描きですよ。祖父の代からの手描き一筋にこの二階で家族でやっています。機械を入れると場所、従業員等と、量ではとても余計な事で仕事が増えるでしょうね。

近年、本物を求める皆さんからの注文が後を絶たず、嬉

しい悲鳴をあげています。

——鱗のデザインや、色などは年によって変化するのですか？

●そうです。職人は行程の一部だけを受け持つのではなく、全行程をやりますので、自然に研究熱心になります。作ろうとする素材と対話ができます。発見、創造ができます。機械ですと鱗のデザインを変えようと思うと何台もの機械を新しくしなくてはなりません、手描きですと筆一本で変えられます。

●毎年社長がデザインの原案を出して、皆で意見を出しあい、描いてみて工夫しあって昨年の鯉よりも良い鯉を作りたいとデザインを決めます。決まると今度は昨日の鯉よりも良い鯉を作りたいと、一筆一筆に心がこもりますよ。

——世の中の流行やデザインにも敏感でなくてはいけませんね。

●そうですね。世の中の流行もあるでしょうが、空に泳いだ時に元気に泳ぐ鯉にいかにか近づくと考えていま

す。例えば、鱗の色ですが以前は一色でしたが、今は濃淡三色にしています。本物の鯉のように、背は濃く腹にむけて淡くしています。

——わあー本当だ。おっしゃるまで気づきませんでした。

●気づかれなかったことは、自然の鯉に近づいたことかな? (笑)

——鱗や目の周りの金引きの模様は、とても大胆でナウいですね。

●そうですね。昨日まで見えなかった線や色や形が見えてくるんですよ。鱗の金引きの形も今は、丸いデザインにしています。又、目の周りも以前はぼかしていたのが、今は筆の先ではねています。

——一番難しいところは?

●その御質問が一番多いですね(笑) 鯉は大空で勝負するもの、遠くから見られるものですから、細い線、小さい柄は消えてしまうので、必然的に大柄なデザインになります。しかし、お客様が購入しようとする時は間近で

品定めをする。その時でも魅了するには微妙なタッチも必要なんです。この相反することをなんとか仲よくさせようとするところに難しさがありますね。

——初代橋本弥喜智さん製造の手描き鯉のぼりが、皇太子殿下の初節句に献上されたそうですが

●そうなんです。はじめにお話したように、鯉のぼりは町人のものなのです。それが皇室始まって以来初めて、大内山の緑の中にひるがえたのです。昭和九年のことです。

——この鯉のぼりの長さはどの位ですか?

●これは1.5m、あの大きいのは13mです。今はマンション住まいが多く、鯉のぼりを立てたくても立てられないので、小さい物が求められています。小さいのは子ども服と同じで、材料は少くても行程に手間がかかります。85cmの和紙手描き鯉もあります。

——雨が降ると下ろした方がいいのですか?

●終戦直後までは和紙でした。和紙は大きさが限られているので貼りあわせて作ったものですから、すぐに風に

もっていかれましたね。色も染料を膠でとめていましたから、雨に弱かったですね。それで、雨に強いナイロン製スクリーンによる大量生産の可能なものがはやり、何本もの鯉をつけるようになりました。ところが、これまた住宅事情で何本も立てられないので、一本でも小さくとも良いものをと、再び手描きが見直されてきましたね。今は顔料ですから雨にも強いし、長持ちしますよ。

——祝ってもらったお子さんがおとうさんになっても、息子の鯉のぼりと並べて上げられますね。

●そう、ほこりをよくはたいて、乾燥させて湿気の少ないところにおいていただければ何年でももちますよ。

——昔は、吹き流し、真鯉、緋鯉と何本も上げなかったのですか？

●元は武者絵幟ですからね。男の子が生まれると真鯉を一本、親の実家から贈ったものです。それに見合ったものをと、吹き流しや、鎧、兜、五月人形等を親戚が贈ったものでした。

——童謡に♪大きい真鯉はおとうさん、小さい緋鯉は子



どもたちとありますが、

● 真鯉、緋鯉と雄、雌は関係ないですよ。我子が元気に育つようにという子どものお祝いに小さい鯉が子ども達なんてことはない。戦後、ナイロン製品大量生産時代になってマツチする歌詞ですね。昔は鯉のぼりセットなんてなかった。大量生産時代にセットが出てきたんですから。♪いらかの波と雲の波♪が本当でしょうね。真鯉一本で上げてましたよ。生まれたお子さんの名は、真鯉の腹に入れます。

——これは家紋の型ですか？

● そう、家紋は吹き流しに入れています。

——こちらにナイロン製の注文もきますか？

● きますよ。デザインはこちらで考えて外注に出しています。数はできても、縫製、口輪等の手作業がおいつきませんので。ホラ（と壁に止めてある注文書を指さして）女の子の誕生を祝って「ピンクの鯉のぼり」を注文する方もいるんですよ。グリーンの注文もあります。

——「親子手描き鯉のぼり教室」が去年行われたとか、

● はい、勤労会館でやりました。喜んでいただけました。自分で描いた鯉のぼりを上げるのは格別でしょう。私なども、自分で描いた鯉のぼりはすぐにわかります。

大空に自分が描いた鯉のぼりが泳いでいるのは嬉しいものですよ。三月から四月、五月は大好きです。（笑）矢車のカラカラと回る音は滝の音に、吹き流しは滝の流れに見立ててあるといえます。吹き流しの五色は、中国の古俗で、五色の糸を臂^ひにかけて病氣・災厄をはらうことからきているとか。日本でも、菖蒲・蓬・棟^{きんぎょ}などに災厄をはらう力があるとされ、身につけたり、屋根にかける風習があったそうで、矢車の上に今でもこれらの葉をさしてあるのを見ることがあるでしょう。何はともあれ、子ども達に、元気に大きくなってほしいという心の表れですね。

——今日はどうもありがとうございました。

帰路、加須駅へ向う途中立ち寄った人形店に武者絵幟がかかっており、嬉しくなってお店の方に伺うと、今で

も山梨一帯、静岡、福島、栃木の一部には端午の節句に武者絵幟を立てる風習が残っており、武者絵を描く方もいらっしゃるそうです。「その地方は、未だ尚武の気風を尊ぶのでしょ」う」とのことでした。

(編集部)



武者絵幟